

令和3年度 第1回西淀川区教育行政連絡会議事要旨（小中学校）

日 時：令和3年6月23日（水）10:00～12:00

場 所：西淀川区役所5階 第3・4大会議室

出席者：（学校）柏里小学校 野里小学校 姫里小学校 姫島小学校 福小学校 大和田小学校
川北小学校 佃小学校 香簀小学校 歌島小学校 出来島小学校 佃西小学校
御幣島小学校 淀中学校 西淀中学校 歌島中学校 佃中学校

（区役所）中島 区長

横内 こども福祉担当課長・山城 保健福祉課担当課長代理

向井 保健福祉課担当係長・播谷 保健福祉課係員

（来賓）岡崎 教育委員会事務局指導部人権・国際理解教育担当総括指導主事

山崎 第1共生支援拠点プレクラスコーディネーター

（講師）榎井 大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター特任教授

○榎井先生より「外国につながる児童生徒の教育に関する教職員向け研修会」を講じていただく。

○山崎先生より研修会の題目について意見をいただく。

○意見交換要旨

淀中：多文化進路ガイダンスを市外教（大阪市外国人教育研究協議会）にて毎年行ってもらっているが、コロナにより例年2回あったものが1回になってしまった。外国につながる保護者の方は進路についてわからないことが多いため、このような場が開かれると大変ありがたい。学校でも進路説明会を行うが、全体を対象としているため、外国につながる方は個別に対応を行っている。多文化進路ガイダンスは大阪市内で1回の開催であるが、西淀川区でこのような場を設けることが出来るならば参加しやすく、進路指導において大変助かる。

出来島小：今年も外国につながる児童が入学し、プレクラスには大変お世話になった。対象の子どもたちは理科や社会の授業を受けた際も丁寧な字を書き、テストも出来ていて、プレクラスのおかげで早くも授業スピードについていけているのだと感じた。

区：先生方につきましては学校に戻られたら、本日の資料を他の先生方にも共有していただきたい。また今後とも区と学校の連携を強めて取り組んでまいりたい。

外国につながる生徒など個別の対応が必要なケースにつきましては、学校において生徒としばらく向き合ってから学校側で対処しようと思われる方もおられると思いますが、せっかく第一共生支援拠点があり、一早く子どもたちを積極的に支援していく体制がありますので、学校側で考え込まず専門的な知識をもつ拠点を活かして支援を始めていただければと思う。

福小：本校は小規模校で130人ほどになり、その中の10名が外国に繋がる生徒であるが、10名の内の2名が転校することになった。子どもは飲み込みが早く大阪弁もペラペラであるが、保

護者が言語の問題で転校手続きに戸惑った。その時は携帯の通訳アプリによりやりとりを行いつつなんとかしたが、学校からの手紙を多言語化しないと困る場面がある。翻訳など行う作業は学校として困難であり、支援いただきたい。

山崎：多文化共生教育相談ルームが南小学校内にあり、市内の学校で統一して送る文書については、多言語の手紙を用意している。是非活用していただきたい。第1共生支援拠点にお電話いただいたら繋がせていただく。

大和田小：資料では日本語指導を要する者が0名となっているが、実際は外国につながりをもつ児童が21名、その内外国籍を持つ児童が11名、そして日本語指導を要する児童が4名、これが今の実態。資料と異なる理由として外国籍を持つ児童の7名が初期面談を行っていなかった。今まで初期面談は来日等、来たばかりの子にのみ行っていた。しかし、本校のケースは幼稚園・保育所から日本におられたケースとなる。日本語指導を要する4名の他にも数名、日本語指導が必要だと指導主事に判断された子もいる。日常会話ができるから大丈夫だと判断していた子たちも日本語指導が必要だと最近分かってきた。しかし現場でどのように対応をすれば良いかが分からない。フォローする人材がおらず、フォローするノウハウもない。制度として低学年だと25回の専門家派遣や高学年だと西九条のセンター校で学習できることは知っているが、そこが終わった後にどうすれば良いかが難しい。

子どもたちの家族において、お父さんは仕事などで日本語のコミュニティに属しており、日本語を良く知っているが、お母さんは日本語が分からない家庭が多い。そのため家では母語で話しており、学習言語が身につけていないのだと気づかされた。これについてもどのように対処すれば良いか分からない。

個別指導が必要だと判断した際は、通訳を準備し、個別指導を必要とする理由を教育委員会と保護者と相談しながら見極め、保護者にも十分に説明を行い、理解いただいた上での対応を行う。慎重に判断し、保護者の同意を得て、個別指導抽出の時間を設けているが、それも国語・算数のみであり、その他はサポーターなどの人材による授業への入り込みにより対応しているのが現状である。小学校においてもそのような状況であり、中学・高校の入試となるとより大変となる。大阪市教育委員会事務局からノウハウや人材についての支援が欲しい。

本校区はモスクがあることよりイスラム圏の方が多く、日本ではあまり見慣れないイスラム圏の文字への対応に苦慮している。翻訳することが難しく日本語で学校からのお知らせを渡さざるを得ない状況であるが、保護者がその内容を理解されていないことも多く現場は困っている。

また、学校としては一人一人のアイデンティティや母文化を大切に、異なる文化をもつ人々とともに生きていこうとする多文化共生の考えから、学校生活の中での工夫が必要となる。宗教上の理由により、一日に数回お祈りする必要がある場合は、給食の時間に図書室でお祈りの時間を設けていた。また、10歳になったら特別な礼拝があり、学校を早退したいなどの申し出があった場合には、学校としてはお迎えがあれば容認すると伝えていた。

同じ宗教の中でも各人が必要とする宗教的行為が異なるため、教育委員会事務局が一律にマニュアルを作成することは難しいだろうと考えており、各学校で柔軟に対応する必要があるの

ではないかと考えている。

区：子どもが転校した際に学校によって対応が違うというのはなるべく避けたい。市教育委員会としては原則までしか定められないかもしれないが、ガイドラインを提示いただきたく思う。

山崎：基本的にこれからは多文化共生の時代と思っている。宗教を学校に持ち込まないということは、宗教がアイデンティティと結びつく方にとっては難しい。尊重しながら、折あいをつけていく過程が多文化共生につながる。

また特別に支援が必要な児童生徒への教育と外国につながる児童生徒への教育とは切り離す必要があると考える。今回挙げていただいた課題は大阪市だけの問題でなく、日本全体で抱える課題であり、文部科学省も動いている。外国につながる児童生徒を受け入れることは、違いがあることを考えるきっかけとなり、いじめ・不登校の問題の解決につながる。そういったことを考えるきっかけとすることが大きなポイントになる。

榎井：学校現場からの意見を区は集約したら良いと思う。既存で使える制度があっても、現場では知られていないということも考えられる。進路ガイダンスは、保護者が日本の進学システムを理解することが重要なので、区単位で行うことは効果があるだろう。すでに、長年取り組みについてノウハウがある教育委員会と協働して進めるのが望ましい。各学校が課題とすることを出し合って、こうした機会に集約することが大切ではないか。

また、文化本質主義に陥る危険性についての意識を持っていただきたい。「〇〇の国の人は〇〇だ」などよく言われるが、例えば同じ宗教を信仰していても、宗教上禁じられている食物などについての解釈は違っていたりして、こちらから一概に決めつけることはできない。校則等で禁じている服飾文化についても、一律禁止と言えない事情もあつたりする。各学校が文化や習慣の多様性をどのように考えていくのかが課題となる。

こうした幼少時代に苦勞した外国につながる子が、現在は成人となって今の世代の子どもたちを支援する側に廻っているケースも多くみられ、子どもが一方向的に支援される側だと捉えきれない状況もある。

柏里小：本校では祖父世代に來日し、日本で生まれ日本で育ち、日本のアイデンティティをもっている子において、家庭内では祖父の母語が飛び交っている環境で育ち、文化の違いにより困るケースがある。コロナ禍がきっかけとなり、日本的な親に対する考えと実親の間で乖離が生まれ、親の考えをきかなくなった。教育環境で解決できる問題と保護者の方針や家庭内に入っていくことでしか解決できない問題がある。SSWと協力して対応したが、家庭内の問題に対して、どのように介入すれば良いか、保護者に説明しても分かってもらえないこともある。

また別のケースで、日本で子を産んだ後、子どもを母国にかえし、親が日本で馴染んできたときに日本に連れてきたが、子は日本に馴染めなく困る場合がある。経済的な問題などから、将来的な計画が不鮮明となつてしまい、母国に帰りたいのか、子どもをどうしたいのかを学校としては十分に聞き取れない。保護者から学校に希望を伝えられたらまだ対応の仕様があるが、学校の善意で行うと逆の結果を生むときがある。西淀川多文化進路ガイダンスは

小学校段階において、今後どのように暮らしていきたいかなどの福祉的な部分を含めて踏まえて行っていただきたい。

区：こどもサポートネットでは福祉の面からも子育て等の支援を行っている。区や山崎先生に相談していただきたい。

○区より次第に沿って説明を行う。

区：コロナ禍において教育現場は様変わりしたと推察する。給食では皆で楽しく食べることも教育だったと思うが、今は黙食となり、子どもたちは大きな被害を受けている。子ども達に生きる道標となるのが大事と思い、今回取り上げたキャリア教育も踏まえて子ども達の支援となることを区としても考えていくので、課題や意見を今後も共有いただきたい。

今回、日本語を流ちょうに話しても学習面で不安がある外国に繋がる子ども達がいることを校長先生と共有させていただいた。次は現場の先生方や教育委員会指導主事等と共有の場を設けさせていただき、区から説明する形や代表となる先生に参加いただき伝達していただく形などにより今年度中に行えれば良いと思う。学校現場が忙しいことも承知しており、時間が難しければ来年でもやむを得ないと考えている。

○意見交換要旨

佃中：武庫川女子大との連携はキャリア教育の側面やサポーターとして学生が学校に手伝いに来てくれることも期待して実施していきたいと思っている。上手く実施されれば他の学校へも共有させていただく。学校現場は人材が足りておらず、武庫川女子大は意識の高い学生も多く、良い関係作りが出来れば良いと考えている。

大和田小：小中学校は非常災害時の臨時休校とする際に河川の氾濫が条件の一つにある。非常時にYahooのサイトより警戒レベル3相当のアナウンスが発出するときがあるが、臨時休校の条件となるのは大阪市危機管理室が発出する警戒レベル3以上のことであり、混乱を招いている。大阪市危機管理室から区役所の危機管理室が情報を受け取った際に、校園長側にも情報を配信いただきたい。条件の始点となる朝7時時点では、情報を掴みにくい。警戒レベルの情報を得るにあたって大阪市のアプリ等では危機管理室のツイッターへ誘導するようになっており、学校現場へは大変不親切な作りとなっている。危機管理室のツイッターではわかりにくい。配信方法は任せるが、共有している学校管理者名簿のメールアドレス一覧を利用いただくのがいいのではないかと思う。7時時点もそうだが、リアルタイムに情報をいただきたい。

区：yahooのアナウンスが混乱を招いているとの情報は掴んでおり、大阪市危機管理室よりyahooへは変更をお願いしているが、実現には至っていない。要望に応えられるよう防災担当と協議を行っていく。